

平成24年度埼玉60総会記念講演(要旨)

「南西の防衛」 平成23年12月11日

陸上自衛隊

東部方面総監部幕僚長兼朝霞駐屯司令

陸将補 山下 裕貴

講演中の山下朝霞駐屯地司令

最近、防衛上極めて注目度が高くなってきているのが我が国南西地域であります。この地域の防衛を考える上で中国の存在を語ることは避けて通れないことです。我が国と中国は経済・文化面等で極めて密接な関係にあり、日中友好は我が国の発展のため欠くことが出来ないものです。ただし、日本の防衛態勢を着実に整備することと、日中友好とは相反するものではなく次元の異なるものです。

本日は、「南西防衛」のテーマでお話をしますが、まず中国の現状についてお話ししたいと思います。中国は面積・人口とも極めて大きな国であり、また政治体制は中国共産党による一党支配体制が建国から続いています。近年の経済成長は驚異のスピードで進んでおり世界第2位の経済大国にまで発展しています。しかしながら格差社会、環境悪化、資源・エネルギーなど多くの問題点も抱えており、一部は経済発展のアクセシブルとも見られています。このうち資源・エネルギー問題が東シナ海における我が国の海上権益に直接影響を与えています。中国は経済発展を持続させるため、その発展のボトルネックとなっている資源・エネルギーを安定して確保する必要があり、そのため海底資源の開発に力を入れており、手段として海空軍力の近代化を急ピッチで行っています。中国軍の最近の増強と活動

の活発化は、その不透明性から周辺諸国に脅威に感じられており、我が国の南西防衛を考える上でも重要な要素となっています。

南西地域の防衛の要となるのは地政的にも沖縄県であり、そして沖縄を考えるには、琉球王朝と薩摩藩・日本政府との関係、第二次世界大戦での沖縄地上戦、戦後の米軍占領から本土復帰及び現在までの基地問題などの歴史を知る必要があります。普天間基地を巡る辺野古移転問題は皆様方の承知するところだと思えます。このような歴史から沖縄県民には複雑な感情があることを我々は知る必要があります。

我が国の南西防衛への備えは第15旅団の新編・航空自衛隊の強化など動き出したばかりであり、着実に進めなければなりません。しかしながら現在、宮古島以西（同島を除く）に部隊が配置されておらず空白地域となっています。この地域の最西端である与那国島に来年度予算要求に計上（用地購入）された部隊配置などの施策は極めて大きな意義があります。

日本の南西地域の防衛態勢を確固たるものにし、その上で中国をはじめ周辺諸国との友好関係をより一層深め、共に発展していくことが日本の将来のため極めて重要であると思えます。